

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年9月23日 No.33

2024 国際鉄道安全会議②

JR東労組が新幹線の安全性について提言！

国際鉄道安全会議の初日（18日）、第2セッション「安全運転：CCS（制御コマンド及び信号）の変革」の中で、佐々木副委員長が郡山駅にて発生した新幹線の大滑走の事例を用いて、新幹線の自動運転及び無人運転に対する問題意識を発信しました。



新幹線の自動運転及び無人運転は「安全上」可能か！

【要旨】

科学技術が発展する中で新幹線の自動運転や無人運転が実用化に向かっているが、新幹線の滑走、架線の垂下、保異音感知による床下機器の破損等のトラブルが発生している。

自動運転及び無人運転を行うにはリスク管理がしっかり行われなければならない。現時点においては自動運転実施後もマニュアルブレーキの介入や異常時に旅客救済を行うために乗務員の乗車が必要。

また、安全と安定は矛盾関係にあることから「新幹線を止めない、遅らせない」ではなく、安全こそが第一の打ち出しが必要である。

提言を聞いた参加者から「良いプレゼンだった」「働く人を大切に考えていることが伝わるプレゼンだった」「現実問題を発信してくれて良かった」「現場視点から対策が出されていたのが良かった」等の意見をいただきました。

国際会議の開催中に新幹線が列車分離！

会議が行われる中、9月19日には営業列車で走行中のはやぶさ・こまち号の連結が外れて列車分離が発生しました。まさに新幹線の安全が崩壊しています。これは偶然ではなく、起こるべくして起きた必然と捉えて原因究明しなければ、お客さまの「命」をも奪いかねない大事故が発生してしまいます。



その③へ続く